

北海道における北前船の歴史的価値の観光資源化

プロジェクト代表者：高野 宏康

1. プロジェクトの目的・概要

●プロジェクトの目的

北海道の発展に重要な役割を果たした北前船の調査研究を通じて、その歴史的価値の地域観光資源化を推進し、小樽・後志と道南、札幌圏をつなぐ新たな広域連携・観光ルート開発を目指します。本年度は特に、①道内・択捉島、北陸の調査と、②日本遺産認定自治体との連携を推進しました。

2. 具体的な取組内容

●調査研究（平成29年5月～平成30年3月）

①小樽倉庫の創設者・西谷家に関する新出資料を多数発見

旧西谷邸（石川県加賀市橋立町）の未調査資料を加賀市と連携して調査を実施しました。（西谷海運の社史等を含む小樽および道内での西谷家の事業関連資料数千点以上）

②道内（後志・札幌・石狩・択捉島）、択捉島で北前船関連文化財の調査を実施

ヨイチ場所産のイナウ、九谷焼（小樽・後志・札幌・石狩）、船絵馬（厚田）、軟石（札幌・辻石材工業）、北洋漁業関連（函館、択捉島）等、新たな知見が得られました。

●情報発信・情報提供による地域観光資源化

①日本遺産事業に協力（北前船日本遺産登録推進協議会、日本遺産追加認定申請

自治体：小樽市・石狩市・富山市・大阪市など、日本遺産認定自治体：函館市・加賀市・小松市など）。小樽市の追加認定申請に、本研究プロジェクトの調査研究成果、取組みが実績として位置づけられました。日本遺産認定記念講演会に協力・出演しました。

②HBC北前船こども調査団事業に協力 小樽でのワークショップ、ガイドツアー、

全国の北前船寄港地（6自治体）が小樽に集まって開催した北前船こどもサミット、まっぷる特別編集「北前船こども調査団」に監修等で全面的に協力しました。

③北前船と北海道について各種メディアに論考を寄稿

（小樽商工会議所会報、BYWAY後志、小樽チャンネルMagazineなど）

④各種講演会、シンポジウム、ラジオ、新聞等による情報発信（20件） 花川北中学校で

は出前授業を実施し地域教育に貢献しました。COCシンポジウムで報告しました（2/20）。



北前船と銀行



日本遺産認定記念講演会



まっぷる特別編集版



上：西谷家調査(2018.11)
左：北國新聞の記事(2018.2.27)

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

本年度は、日本遺産事業に協力することで、道内・北陸などの認定自治体と連携して北前船の観光資源化を推進することができました。また、北前船関連の全国学会、各地の地域振興事業などに情報提供を行い、小中学校、本学の地域志向型教育プログラムに成果を還元することで、**調査研究・観光資源化・教育のサイクルを確立**できました。